

2010-051 Chiyo Seko

Interviewee: Chiyo Seko (勢古千代)

Interviewer: Hisayo Horie

Date: Aug 24, 2010

Location: Momiji Health Care Society, Toronto, ON

Accession Number: 2020-051



This interview is in Japanese with the exception of some speech in English at approximately 20 minutes. The full Japanese transcript follows on page 4. A descriptive index is provided in English on page 2 and 3.

このインタビューはほぼ日本語で行われました。動画をもとにした全文書き起こしは英語の概要の後に4ページから見られます。

Content warning: Please note that this interview contains mentions of group suicide, substance abuse, war trauma, and a story relating to the death of a child.

注意: 下記のインタビューには気分が害される可能性がある内容が含まれています。集団自殺、戦争体験とその後に及んだトラウマ、アルコール乱用、そして幼児の死についての話がありますので、あらかじめご理解の上ご覧ください。

Time	Description
00:00	Chiyo talks about where she was born and her parents and a brief overview of her brothers' roles in the war.
00:05	Chiyo talks about parts of her childhood in the countryside of Wakayama prefecture. She talks about learning to dance as a child, then teaching odori in Canada. She then talks about moving to Canada.
00:10	Chiyo talks about her childhood taking care of her family's cows, and how it led to the Wakayama Governor recognizing her name.
00:15	Chiyo talks about her health as a child and her motivation to help her parents' work, and then jumps to her marriage and moving to Canada.
00:20	Chiyo calls over her husband to talk about various stories such as when he returned to Canada and his employment until Chiyo and their three children joined him in Toronto.
00:25	Chiyo talks about her daughter who died young after immigrating to Canada and about coming to Canada on boat.
00:30	Chiyo talks about work while raising children in Canada and getting to know people as a person who only speaks Japanese. She then talks about her relationship to Buddhism both in Japan and Canada.
00:35	Chiyo talks about the cultural differences between Japan and Canada such as being able to small talk to random people in the streets. She tells a story about interacting with odori students after quitting teaching as well as a story about her stroke which prompted her to quit odori.
00:40	Chiyo proceeds to talk about interacting with Japanese Canadians and other people in Canada, people in Momiji, and talks about her children.
00:45	Chiyo tells some stories about one of her grandchildren, her father's response to her immigration, and talks about her current family.
00:50	Chiyo talks about nostalgia for Japan and her relatives and acquaintances in Canada.

00:55	Chiyo talks about more of her friends and people she's met in Canada. She talks about her interest in talking with younger generations about Japanese war history.
01:00	Chiyo continues to talk about nostalgia and some of the events that occur at Momiji.
01:05	Chiyo talks about more events and programs that she has attended at Momiji such as morning exercises, a visit from the Japanese emperor, and gateball.
01:10	Chiyo continues to talk about her experiences living in Canada, playing gateball and bowling as an older adult.
01:15	Chiyo talks about teaching odori while in Canada and starts talking about composing a song for the Japanese Canadian Centennial celebration.
01:20	Chiyo talks about when she composed the song.
01:25	Chiyo talks about when she moved to Canada and her family's opinions on the move, as well as briefly about her family's involvement in the war.
01:30	Chiyo talks about what she remembers from when the war ended and some of its effects on her and her family.
01:35	Chiyo talks about how she feels nostalgia but cannot visit Japan at her age, and talks about more family members.
01:40	Chiyo talks about some stories regarding her friends and odori.
01:45	Interview wraps up, Chiyo talks about things she's doing now in her current age and that she enjoys Toronto.
01:50	Chiyo talks about an upcoming event that she's looking forward to. Interview ends at 01:53.

Lisa Uyeda: Just start off by saying the date and interview with Chiyo.

Hisayo Horie: Ok, what date?

LU: August 24.

HH: August 24, interview with Chiyo Seko? Yeah?

勢古千代 (Chiyo Seko): 勢古千代 (セコチヨ)と言います。

HH: 勢古千代さん。

CS: はい。

HH: はい、じゃあインタビュー始めさせて頂きます。といっても、今話した様な事をいっぱい聞きたいんですよ。だから、リラックスしてどんどん喋ってください。

CS: ありがとう。

HH: じゃまず初めにですね、お生まれになったのは何年くらい?

CS: 私生まれたのは、なんか忘れっぽうなってね。

HH: 今、お幾つですか?

CS: 1923年5月4日です。

HH: じゃあ子供の日の。

CS: 4日。その時はね、東京の浅草にお父さんが居てる時に、お母さんが千葉県です。

HH: 千葉県のどこら辺ですか?

CS: 千葉県の、私も行ったけど、なんていうたっけ、千葉県のあそこ。ぼうー

HH: 房総半島? 海に近い方ですか?

CS: お母さん、お父さん、東京に出て、お裁縫の勉強をしてる時のお父さん、世話してもらって結婚したらしいの。

HH: あ、なるほど。

CS: はい、浅草で商売してたの。

HH: あ、なるほど。なんの?

CS: その時、私生まれたの。

HH: じゃあ、お生まれは東京の浅草。

CS: 姉が二人おるし、はい。それで、兄さんと。私が5人目だったね、兄妹で。

HH: 5人兄妹? 下にもいらっしやいますか。

CS: で、全部で8人。紀州で生まれた、弟なんか。でも、戦争の、終戦なって、あの、もう戦争も終わったのに、満州に送られていた兄さんなんか、お嫁さんが追っかけて行ってたのに、自殺したんです、その部隊。戦争終わった時。そして、弟は15~6才の時、あの時、日本では皆若い子でも兵隊に勤められて、志願して、海軍の潜水艦乗りだったけど、北朝鮮の方へ行ってたけど、戦争終わった報告聞いて、北朝鮮で。それで日本に帰る時に、沖へ出た所で、ちょうど、ロシアから撃ち出された魚雷に潜水艦ぶち抜かれて、弟も19才で戦死しました。はい、だから、兄と弟が戦争で死。で、もう一人の兄が南方の方に送られていたのが、無事に帰って来ましたが、はい。

2010-051 Chiyo Seko



HH: 東京で終戦を迎えたんですか。

CS: ノー、紀州の田舎で。

HH: 紀州の田舎で。それは疎開という形だったんですか。

CS: 私、子供の頃も、お父さんの田舎へ、戦争なんかで、お父さんの田舎へ、紀州へ帰ったんですわ。

HH: じゃ、お父さんの田舎が紀州。で、お母さんは？

CS: 和歌山県的那智勝浦町って今は言うけど。南の方、串本からちょっと、向こうへ行ったとこ。

HH: で、お父さんは裁縫のお勉強をしに東京にきてたんですか？

CS: お父さんはね、坊さんとしてお寺で育てられたのが――

HH: 紀州で？

CS: うん。お父さんの兄さんがアメリカへ行くのに、カナダの、外国に行きたい、なんかそういう時があったんですね。それで、一緒に、横浜まで付いて行ったけど、トラホーム(Trachoma)で船に乗せてもらえなかった。あんとき、そんな事あるのね、目の検査で。だから、お父さんはカナダ・アメリカへ行けなかったんで。お父さんの兄の方が出てって、お父さんはそれで、そこで、東京の方へ、横浜でなく、東京の方で働いてたんですわ。はい、もう、やけど、子供の頃、坊さんで育てられても、やっぱし、ええからもうお坊さんやめてしまっていましたから。はい。

HH: で、紀州の方に戻って、終戦――

CS: で、百姓。はい、アメリカへ行った、本家の、元はトジ、私トジ言う名字です。お父さ言んトジ ソウカンとって。だから、私も小さい時からね、田舎です。兄妹みんな。

[00:05]

CS: だけど、一番姉さんはその時もだいぶ年いったんで、東京の叔母さんの世話で、東京に残って、後の2番目の姉さんと私の兄さんや兄妹みんな紀州へ帰ったんです。

HH: お母さまは？

CS: お母さんとも一緒に。千葉で生まれせんのに、お父さんに付いて紀州の田舎に行って。はい。で本家の、トジの本家のおばあさんの世話せんならんから。はい。それで、それが、私の田舎でずーっと、兄妹みんな育て、1番上の姉だけが東京に残ってましたけど。はい。

HH: どんな風な生活でした、紀州で？

CS: 日本でだったら、大正、これね、1900って言うけど、大正12年に生まれたからね、あたし。

HH: どんな事して、遊んだりとか、してたんですか、紀州で。

CS: はい、紀州の田舎でね。で、戦争の酷い時は、何しても、お父さんと[不明]してたもんだから、婦人会、青年会、なんのこのどんどん、戦争が終わって、兵隊から生き返って、戻って来る人を迎える為に青年婦人会で慰労会、歓迎会なんかしたでしょう。あん時の踊りやなんか要るでしょう。

HH: そうですね。

CS: はいはい、婦人会へなんか。それで、私が教えてきたんです。

HH: へー、じゃ、ずっと子供の時から踊りなんかは習ってましたか。

CS: で、その青年の時、一度、学校高等から1年2年卒業して、東京へ出て、姉が二人東京におったから。で、その時にご奉公してたのが、ある金網会社の社長さんのお屋敷でね。姉の奉公いった後、私ご奉公して、その時、奥様に時々ね、宝、踊り、宝塚とかなんとか言ってね、演芸、芸事がある時、連れてって見せて頂いたの。それで、何でも、歌が出来たら、踊りを作る事になっちゃったの。[笑]

HH: それじゃ独学ですか?

CS: それで、だからもう田舎だ、青年会なんかしてる時に、歌さえ頼まれたら、なんでも、踊りこさえたんです。

HH: へえ。

CS: それしてたんでね、そしてカナダに来たらね、来た時に誰も、踊りって無かったでしょう。何かん時にお寺で仏教会お寺で、踊りの事の話が出てたらしいの。だけど、うちのハズバン(husband)が可愛がってもらった寺北っておばあちゃんね、セコの親と昔から一緒だったよ。寺北のおばあさんが私を良く可愛がってくれてね。それで、踊りが出来るんだったら教えてやれて。それで、お寺で頼まれて、踊りの会こさえて、それで、小さな子供やなんか、みんな踊りこさえて、教えたんです。

HH: へえ。

CS: はい。それで、だんだんそれから、トロントでも日系人が、盆踊りでも何でもするようになりまして。はい。で、日系文化会館もそのうちできて、会館も出入りする様になって、私達。

HH: はあ。

CS: はい。で、ハズバンもその和歌山県の、色んな県がみんなグループこさえてますよね、滋賀県のグループとかって。で、和歌山県の会の中で手伝ってましたんで。はい、しょっちゅう出る様になったんです。

HH: どういういきさつでカナダに来ることになられたんですって?

CS: ハズバンがマッシュルームの呼び寄せでカナダに戻っちゃったから、私も、カナダにきたんだよ、後から。

HH: 終戦後に旦那さんと、会ったんですか、日本で。

CS: はい。ハズバンド先来て、働いて、で4年間、働いて呼び寄せてくれたの、私達は。

HH: いつ、どっち、日本のどこで旦那さんとお会いになったのですか?

CS: 私、日本語ばっかし、日本だもの。

HH: 日本のどこで、紀州でお会いになったんですか?

CS: 紀州、はい。

HH: 旦那さんが紀州に働きにきてたんですか。

CS: ベービーの時は東京で後、お父さんの田舎、紀州の田舎。はい。戦争中なんかも本当にね、山の上の兵隊のおる監視哨へ慰問に行ったりね、田舎の婦人会、青年会の人たち、そんな事もしていました。

HH: 戦争が終わった後は紀州で、お百姓さんの手伝いしてたって先ほどおっしゃってました。

[10:00]

CS: で、色々してたけど、ハズバンが一回、みんなカナダから帰って来た人らでもみんなカナダに戻りたくなくて、戻るようになったんで。それでうちのハズバンがさっき、カナダに行きたいと、パパ、ママも見送ってしまって、亡くなってから、セコ

が先カナダに戻ったんです。ハズバンが、それから、私は後で、ま、いつカナダに行けるんか行かないか分からないと思ってハズバン帰ってくるのを待ってるくらいに百姓してたんだのね。それから呼び寄せてくれたんです。カナダに来た方がええって。

HH: お百姓さんやってた時はどんな事してらっしゃったんでしたっけ? どんなお仕事してたんでしたっけ。牛の――

CS: 私は田んぼ耕す百姓ばかりしてました。お父さんとお母さん助けて。はい、でも、ほら兄妹死んでしまったからね、戦争やなんかで。

HH: で、牛のお話をもう一回してもらってもいいですか?

CS: いつかね、カナダにきて何年かして和歌山県の知事さん、副知事さんだのね、何年か来られた時にね、ここのカナダの和歌山県のメンバーがみんな集まってね、歓迎会しました。お迎えしました。その時にね、うちのハズバンは和歌山県の役員だったんでね、私も出席したんです。「行こう」ゆうて。で、その時にね、副知事さんがね、大勢並んでいるメンバーにね、自己紹介して下さいって、みんな名前。で自己紹介みんな一人ずつしましたんですよ。その時私はね、和歌山県の人だからと思ったけどね、私、今はセコですけど、旧姓はトジチヨですって言ったら副知事さんが指を出して、「待って下さい」って。あんたの名前はよく聞いてますって、知事さんから。はい、そう言って下さって、私もビックリしたの。知らない人なんだのにね。トジ、旧姓はトジですって言った。トジチヨですって言ったら、あんたの名前は知事さんからよく聞いていますって。

HH: へー、どんな事で――

CS: 牛耕指導員としてあっちこっち [?] です。ね、戦時中、戦前、戦後、活躍してたんです。それで、名前――

HH: じゃあ、牛耕指導員のことについてもう少し詳しくお聞きしてもいいですか。さっき、話していただいたんですけど。

CS: 牛耕指導員になってたから、はい。わたしもビックリしましたけど、ただね、和歌山県の人だったから、その点、県庁は遠いところで、みんな行くとね、やっぱり、ちょっと言ってみたの。そしたら、旧姓はトジ言っただけで、聞いてますって、いきなり指出して、待って下さいって。ハツハツハ、ほんだけ嬉しかったです。はい。

HH: 牛耕指導員というのがどういうお仕事かもう一回説明していただいてもよろしいですか?

CS: 男手がね、兵隊取られてばかり、若い男が居ないと、お年寄りって困った人らがね、自分の田んぼ耕すのが出来なくなるでしょう。それで、子供らの、息子らにさせようと思ってもみんな分かんないし。だから、牛の扱い方がわかんないから、和歌山県の県庁で、きっともう女の、牛を扱える女を何とかしなきゃって言うんで、戦争中はあーしてやってたんでしょね。はい。で、丁度、和歌山県の役人の人が私達の村へ来た時、私田んぼで、女で牛使って田んぼ耕しているの見たんですよ。それで、牛耕の講習会をするようになったんです。はい、だから和歌山県内の西牟婁郡、東牟婁郡、と方々から、農民から、女の人集めて、百姓お手伝い出来る様に。はい。

HH: 子供の頃から牛を扱っていたんですか?

CS: はい、私も学校卒業してからね、お父さんの面倒ずっとしてました。東京へはいっぺん出て奉公してたけど。でも、あたしね、小さい時、6つ7つの時ね骨膜骨髄炎と言う病気になってね、足の骨が腐る。こっからここまで。それでね、だけど、あの時、汽車に、和歌山県に汽車が走ってなかったんでね。田舎で、ただ、田舎の医者だけでね、面倒見てもらっている間にだんだん足が悪くなって、12、3か、なかまで繰り返して、オペレーション。

CS: 足がうずかれて、腐って。だから、傷口がようけあります。はい、足はここからここまでね、傷だらけなんです。はい。それでもやっぱしね、お父さんの面倒みなきや、学校卒業してから、はい。だから小学校の時はずっといつも通ったわけじゃないんです。ね、発病してまた、病院行きしたもんだからね。だけど、本当に、親の、こんな親困らせたんだから、自分が働かなきゃと思って、戦争酷くなって、兄さんが二人と弟が兵隊行く様になった後、私、田舎へ帰って手伝う事になったの。お父さん、手助けしなきゃと思って。はい。

HH: なるほど、その頃って千代さんおいくつくらいですか。

CS: 私、学校高等 1 年 2 年って、小学校 6 年で卒業して、今度、高等 1 年 2 年って、違った小さい町の高等科の学校へ通うでしょう。はい、そうしてから、そのあと、東京へまた奉公に上がったんです。はい。

HH: なるほど。それで、旦那様に紀州で、会われて、何年くらい日本でお二人で。日本で結婚なされたんですか。

CS: はい、この人が、日本が戦争やめてから、カナダの人が何人も。戦争中はね、カナダで生まれた二世のものはね、親がその前、外国来るようになった。一応戦争終わって、それから親がカナダに来て働いたりしてる時に、子供なんかみんな、そやけど、戦争、日本が戦争になった時はやっぱし日本人はみんなね、信用されなくてね。若い男みんな収容所に入れられたんです。アングラーのキャンプ、聞きました？ アングラー・キャンプの事、ハズバンそこへ入れられてたんです。で、戦争終わってから出て、ほいで、パパ・ママ連れて日本へ帰って来たんです。でも、日本、食料難の時でね、はい。でも、パパさん、ママさん、日本の生まれの人だったから。はい。

HH: それで、旦那様も一緒にご家族で、日本に紀州に――

CS: はい。だから、もう、穏やかに日本がだいぶ落ち着いて、日本でも、駅、この人も、丸通会社って運送会社あるでしょ、セコがああゆうとこで働いてました。で、セコのいところになる人と私のいところが結婚してあって、その後、セコがカナダに戻った後まで、私、自分で、自分の子供をお母さんに面倒みてもらいながら百姓手伝ってしてたんです。

HH: それで、いつ頃、それで、旦那様が先にカナダに戻っていらっしゃったんですか？

CS: カナダに戻って来たのはね、1957 年。はい。

HH: じゃあもう戦争が終わってから 10 年ちよいくらいですね。

CS: はい、そうです。

HH: それで、千代さんがこちらに来たのはそれより後ですか？

CS: はい。カナダに来た時は、仏教、お寺は有りましたけどね。日系文化会館ちゅうのができたんです。また来てからできたんです。

HH: 来た位の頃にできたんですか。何年くらいにこちらに来られたんですか、千代さんは。

CS: カナダに来たのが 1957 年ですから、その後です。

HH: オンタリオに？ トロントに来たんですか。始めにまずトロントにいらっしゃったんですか？

CS: トロント、はい。

HH: じゃあ一番始めに来たのはトロントだったんですか。

CS: 呼び寄せでね、セコ達が呼び寄せで来た。マッシュルームを。カナダに戻ってきてマッシュルームで働いたりしたらしい。

HH: キノコの、マッシュルーム。なるほどね。

2010-051 Chiyo Seko



CS: この人らは先、ね、で、そこで何年も働いて。

HH: 千代さんもそこで働いていたんですか？ トロントに来てからは――

CS: トロントは私が――父ちゃん、父ちゃん、ちょっと言うて、あんた、カナダへ戻った時の事、マッシュルームの事、みんな話してあげて。

[20:00]

CS: だから私、こっちで一緒に座りなさいって言うのに、聞かない。照れくさいから。

HH: 今、マッシュルームファームで働いていた時の事、伺ってたんですけども、戦争が終わって、こちらに戻って来てからのお仕事の話をしてたんですけども。

CS: カナダで生まれ育って、日本へ帰った時の事情と、カナダへ今度呼び寄せの時の事、話してあげてって言うの、はい。

[conversation redacted from 20:43 to 26:05]

[00:25]

[conversation redacted from 20:43 to 26:05]

HH: お子様がいらっしゃったんですね。

CS: はい、3人連れて来たんです。私、この人が日本離れる時はね、3人目のお腹に有ったんです。3人目がね。で、その連れて来た子が、ミツヨいうんですけど、こっちの子供等預かってくれる所、学校へ、ダンダスユニオンのあるところが、入ってね、いたね。そしたらね、6つに成った時、あれは、何で、友達にも凄く近所、デグラシ [De Grassi] に住んでいました。来た時は。だから近所の人やね、とってもね、可愛がられて、子供同士でみて、Spadinaの近くを歩いているとき、ライトを渡る時に、ライト渡ったんだけど、子供らとみんな話しながら、向こう渡った所で、ちょっと、端のものと身体ゆすりあって、サイドから転げ落ちたんです。ちょうどそこへ、トラックが来てたもんで、トラックに轢かれて。はい、6つで死にました。

HH: ミツヨさんが？

CS: はい、とても辛かったです。私、カナダに来なきゃ、この子生きてたかも知れんのにと思って。はい。みんなにミツイ、ミツイ [Mitzi] って可愛がられていたのにね、地元の人。デグラシ、向こうの方にずっと住んでたんです。はい。でも、その子だけ失ったけども、だけど後で、来るときは長男が7つ、んで、2番目の息子が5つ、そいで、ミツイ、ミツヨが3つの時、私、カナダへ船で来たんです。はい。

HH: 氷川丸でいらっしゃったんですね。

CS: 氷川丸で、はい。

HH: どれくらいかかりましたか？ 船で来るのって。

2010-051 Chiyo Seko



CS: そうね、ハワイ、向こうのところでちょっと休憩しました、休みましたしね。

HH: ハワイで?

CS: はい、だから1週間ちょっと? ハワイから氷川丸でどれくらいかかったかしら。あんたも、ハワイから氷川丸で来たからね。みんな昔から、はい、今はもう、あの船がそのまま置いてましたね。

HH: 横浜にですね。

CS: 横浜にね、はい。いつか帰った時に見ました。

HH: じゃあこちらに来てから日本に帰る事も——

CS: 帰る事もありまして、はい。子供、ですから、息子たちね、もう、上の長男が60になりましたけど。もう仕事リタイアして他の仕事やってますけどよ。息子たちね、父ちゃんカナダ二世やから、僕らもここへ来られてよかったって。本当に喜んでくれてます、いつも、はい。で、こっちでまた3番目の息子ともう一人娘が生まれた。その時、あの子が私来た時の、はい、少し大きくなった時の写真でね、あの女の子が、エイミー [Amy] ていうんだけどね。はい、もうあと50になってますよ、はい。

HH: ミツヨさんが通っていた学校って言うのは——

[30:00]

CS: 学校って、ちょっと、小さい子の。

HH: 幼稚園みたいなものですか。

CS: はい、小さいね。

HH: Kindergarten?

CS: はい。でもう、Grade 1 学校入るの、喜んでいたんですけど、はい。

HH: 周りの、こちらに来た時、周りに日本人の方いっぱいいらっしゃいましたか?

CS: いいえ、あまりいませんでした、はい。

HH: そしたら、普段、お仕事はなさっていたんですか、こちらに来てからは。

CS: 私はね、子供が少し何したときにね、ニューモード [New Mode] ってファクトリ [factory] があるのね、工場(こうば)が、あそこに働いている人と知り合って——

HH: 日本人の方、日系人の方ですか。

CS: 日本人の。それで、ファクトリーでドレス縫うの、それをね、通ってやりました。ニューモードの会社へ行って、ドレスもらう、もらって来て、家でミシン置いて、縫って、そして、また。

HH: あー、内職みたいな。

CS: 毎日、そして、何年も、home workしながら、子供育てました。はい。

HH: じゃあ、周りで普段、こう、日本語で話して、遊んだりとか、するのがお友達——

CS: はい、私、日本語ばかり、やってたけどね。

HH: お友達なんかはみんな日本人の方ですか。

CS: そのうち、この人の知っている人や、こっち来て、この人も知り合った前からの人や、BC時代からの人やなんか知っている人らも出てくるでしょう。仏教会にお寺に私も通う様になったし、はい、それで、段々と色々。

HH: お父様が確か、お寺の息子さんだったんですよね。お寺の、お父様が。

CS: 私の? お父さんはね、普通トジって百姓の息子なんだけど、ベビーの、7つの時から田舎の寺へ預けられたらしい。ね。それで、大きくなってから、アメリカへ行くとって言う兄さん、トジの兄さんに付いて行きたかって、行ったけども。船の、トラホームで、乗せて貰えなくて、そいで、もう、向こうで、東京の近いところで、仕事とって、働いているときのお母さんも世話して貰って、はい、それで、結婚したんです。千葉県出身のお母さん、お裁縫やってたから。はい。

HH: そしたら、千代さんは、あれですか、宗教っていうか、お寺によく行ったりなさいますか?

CS: 仏教。はい。

HH: 昔から?

CS: はい、仏教徒です。今でも、お経拝みますよ、般若心経ってお墓へ行ったらいつも拝んでます。

HH: 般若心経ですか。何宗って言うと、般若心経って言うと何宗なんですか。

CS: 何宗って、仏教会でもね、何宗って言うのかしら。へへ。

HH: そしたら、もう、ずっとお子さん、子供の頃から今までずっと般若心経は、やってらっしゃる。

CS: はい。今でもここ来ても仏教の何かあると、お寺まで行きます。はい、ここのお寺ね、はい。

HH: じゃあカナダに来た当時から?

CS: はい。

HH: そうなんですか。他にも、そういうお寺で、日本人の方と会う場所って言ったら、お寺ですか。

CS: そやね、ここ入っている人でもね、仏教信者の人もあるんですよ。だからね、お寺から先生がね、モンズ [month] 一遍来て下さるの。第2週目かなんかね、で、ここの小さいホール借りてね、そこで仏教信者の人が30人近く集まりますよ。お寺の先生来て下さる時は、毎月1回、はい。

HH: こちらに、カナダに来られた当時、お寺、家と工場の他だったらどっか行く場所ってありました?

CS: お寺あったんだよね、昔から、仏教はね、カナダにもね、仏教信者とキリスト信者ってあったのね、ヘネー [Haney]の時代はどうだったの?

SS: あったよ。

CS: あってる? やっぱし、仏教は仏教であったんだ。ね、はい。

HH: で、そこに、通う様な形で?なるほど。

CS: だけど、今、お寺も新しくあの遠い所にムーブ [move] したけどね。けども、いつもモンズ一遍、先生来て下さいます。はい。

[00:35]

HH: カナダに来た時に――

CS: Bathurst の方の所にあったんですよ。

2010-051 Chiyo Seko

HH: なるほど。

CS: Bathurst と Queen の。

HH: ダウンタウンにあったんですか? 今はどこにあるんですか?

CS: 今はあそこ、ちょっと、今ある場所何て言うの?

SS: Steeles Avenue.

HH: Steeles Avenue. Steeles and?

SS: Steeles and Spadina?

HH: Spadina? Oh.

CS: ちょっと遠いけどね、何か有るときは行くんです、ここからでも。で、私忘れっぽいから、道忘れるけど、この人、何処へでも道覚えて、連れてってくれるから、はい。そしたら、ここへ来たら、ここに何人も仏教信者の人が、先生来ると集まるんで、私もここモジ入ってもう 8 年ぐらいになりますけど、驚きました。はい。

HH: なるほど。

CS: ここはやっぱり、キリストとか何とか教の人らもまた集まるとこあるみたいですよ、何人かね。

HH: カナダに来て、ああ日本とこれが違うなとか、思う事って、やっぱりありました? 例えば、どんな——

CS: やっぱし、人様とは案外遠慮なく話できますね。日本の昔は、今は知らないけど、隣の人や近所の人とは道で会ったり、田んぼの端で会ったりすると、挨拶するぐらいするけど、カナダでは余り親しいおしゃべりはしないもん、ね。

HH: それは何でかな、とか——

CS: 他人には、人には無闇にお話しないように言われてた、易々とね、だけでも、案外、ここは、みなカナダはみんな親しくなると、ちょっと知り合うと、みんな親しくしてくれます。はい。

HH: なるほど、それは、日本、日系の人でもそうだし、日系以外の人でもそうだと思います?

CS: はい。

HH: ふーん、ふん。

CS: いつかね、踊りの会が来るでしょう、今、あやめ会とかさくら会とかあるでしょう。あれがある時にね、何かん時にね、私はセンターで、踊りのなんか見に行った時ね、踊りの子ら用意してるのに、支度してる所、知ってる人がいてるんで、ちょっと、もの言いに行ったの。その着物、お手伝いしてる人に、挨拶しに行ったの。そしてね、はっはー、そこ、離れてきたらね後からなんかの時にね、踊りの子がね、私を追っかけて来てね、あんた、ミセスセコでしょうって言うから、ハイって言ったらね、あんた、踊り、さくら会教えてくれた人だってね、ちゅうから。[笑] 私またその時も驚きました。はい。今、覗いてた、来てたひと誰だったかって聞いたんでしょね。それが追っかけて来て、はい。ただ中でのときよ、はい。

HH: 踊りはカナダに来てからずっと続けていらっしゃるんですか?

CS: はい、来たとき、あの頃、踊りって、日本でも、踊りって、してなかったし、はい。段々、日本人の会も、ほら、仏教会でもどこでも色々な芸事、演芸会するようになったでしょう、それで、寺北っておばあちゃんが、セコの親と BC で懇意になったおばあちゃんがね、お前、踊り教えてやれって。そしたら、仏教会のその時の婦人会の人私の所へ訪ねてきてね。出て踊り、みんなが教えて、盆踊り教えてくれって言う様になって、はい。

HH: 今でも、踊りは——

CS: もう、2年半か3年近くなる、ストロークで、ここ入ってからね、外出る時、出かける時に、そのドア出て向こうの、もう一つ向こう [不明] 出る前に、私、倒れたんです。仰向け倒れて、石畳の上に仰向けにひっくり返っちゃって、気失なっちゃった。それで、その時、倒れた時に「父ちゃん、父ちゃん！」言うたけど、この人、前、たつたつ歩いて坂こえて [?] いくのに、聞こえてなかった。そしたら、モミジのトラック、丁度、バンが丁度入って来て、止まったところで、バンから運転手が飛び降りて、私、助けてくれた。はい、それが2年半なの、もう? ね、病院で、1ヶ月余り、病院入ってたんですよ。それから、ちょっとふらつく様になって。

[00:40]

CS:だからね、ここ、トロントの踊りの会の人だね、この会場かりて、いつも、稽古にモンス [month]一遍来るんです。その時、下へ行ったら、知っている子も多いんですよ。古い人でね、踊り、私してたの知っている子が多い。けども、ここにいたら踊りを見に行くんだけど、自分踊れない。

HH: 大丈夫ですか。お水かなんか、飲みますか。大丈夫ですか。

CS: 喉がちょっとあれて、ごめんなさい。

HH: あ、いえいえ。お水かなにか、大丈夫ですか。

CS: いいんです。

HH: こっちに、戦争の後に来て、それで、こちらで、終戦を迎えた日系人の方と話とかします?

CS: はい、日本から新しく来た人もあるしね。

HH: キャンプの話とかはされますか?

CS: え?

HH: キャンプの話とか、聞くことも。

CS: キャンプ?

HH: 日系人の方が収容されてた、そういう話を、ってわりと、よく話題にあがりますか?

CS: あがります。思いがけないとこで、思わぬ人に会う事もあります。

HH: 例えば?

CS: 何かの時に、私、どこかで一緒に食事したときにね、「あんた、おばさん、あんた誰?」 って言ったから、名前 [不明] テーブルで食べる時、「セコです。」って言うたらね、「セコさん知ってます。」って言われて、ビックリした時もある。

HH: 何で知ってたんですか、その人は?

CS: 何で知ったんか、そういう不思議な何がありますよ。私知らないと思って話したら、セコの何を知ってる人に会ったりね、ここに、はい。色んな、思い出が、はい。ちょっと、知り合います。でも、今まで、仏教会で、婦人会で一緒だった人らと、向こうに何人か入ってますね。

HH: なるほど。こっちに来て終戦後に来て、やっぱり、日本人だからってということで、ちょっと、嫌な目に会ったりっていうこともありましたが?

CS: ノー、ありません。オフィスの人らみんなサービスの人もいいひとですよ、はい。で、こんにちは日本人でなくたって、白人の人もあるしね、私、日本語で話できないけどね。コリアンの方、チャイナの方って、色んな人が入っているでしょ、このモミジ、はい。

HH: もうずっと、こっちで、働いていても、そんな、モミジに入る前とか、カナダに来てすぐの頃も、そんなに、バッシングを受けたみたいな事は無く、来られましたか？

CS: みんな、本当にね、親しいね。

HH: なるほど。お子様はそのミツヨさんと、後、上に二人、お兄さん、息子さん、こちらの学校に通ってたんですか。

CS: はい、学校ずっと行って、出て、それで、リタイアする子が一人あるでしょう、長男。で、なんぼう、長男はずっとリカー・ストアで、仕事、働いてたんです、リタイアしましてね、だけど、今度、ワインの会社に、ワインの何かセールスのヘルプしてるようです。次男坊はずっとガソリンスタンド持って、学校すんでから、スタンドは何軒か、30 何軒か、色々なトロントから方々遠い所まで、スタンドのオーナーになってます。はい。

HH: 息子さん、お子様には、何語で話します？

CS: 私とは何でも、日本語。[笑]で、こちらで生まれた三男坊の嫁さんゆうて日本語わからない嫁さんもあるけど、とてもいいひとです。ハンガリー人と結婚してる。嫁さんは様々ね、白人系の嫁さんもあるし、日系三世の子、娘さんもおるし。

[00:45]

CS: だからもう、色々な [不明] あって、娘がとにかくハズバンに死なれてね、私よりその子ずっと大きくなる、ここに入る前まで、おもりしてました。孫の守(もり)でよくあちこちやってきましたからね。はい。

HH: お孫さんにも日本語で話しかけるんですか？

CS: 孫でもね、娘の子、テファニ [Tiffany] って言うんだけど。その子はね、私ずっと、毎日見てた子なんで、私の日本語なんでもわかるようです。

HH: へー、お幾つですか？

CS: 「うん、うん、わかってる。」「わかった？」「うん、わかった。」

HH: Tiffany はお幾つですか。幾つになるんですか、Tiffany ちゃん。お幾つになるんですか、Tiffany ちゃん。何歳ですか？

CS: 孫ですか？

HH: えー、Tiffany さん。

CS: Tiffany はもう、18 か 9 になってるかね。

HH: あ、そうなんですか、

CS: はい、で、娘はよくね、ハズバンいない子だけど、下のボーイがもう 14、5 なの。その子ね、男の子だけど、それをみんな、私、守(もり)してたの、毎日。だから、私の日本語だいたい、ちょっとわかるのね。Tiffany はよくわかるみたい、何でも。はい。

HH: それはいいですね。こっちに来てから、日本に何回くらい帰ってます？ いっぱい帰りますか？

CS: 2回3回、行ったかしら。

HH: いつ頃帰ったんですか？

CS: もう、最後行ったのは、私の母親がね、亡くなる時、もう、私が日本から離れてくる時には、おとう、何がね、うちの父がね、「お前」、ハズバンに言ったみたいで、はい。「お前、呼び寄せて貰ったんいいけどシゲオ君の所へ行け、帰って」でも、「お父さんお母さん、放っとけない」言ったらね、「わたしたちはまた東京」ね、まだその時、次男坊もおったし、姉も二人おったもんだから、「東京へ行って、東京で面倒見て貰うから」って。東京へ帰ったんです、お父さん。その時になってから。はい。で、東京でね、面倒見てもらってね。その時に私、一遍帰って行って来たけどね。その後、一番最後に行ったのはいつだったか知らんね。父ちゃん、日本へみんな自分ら行って来たの何年ぐらいだった？

SS: うちって [?] 三人だけじゃ。三人だけだって。

CS: 何年？ 行って来たの、日本へ行って。

SS: 1979.

CS: 79だね。それで、長男が、もうリタイアしたからね。何だけどね。私、お母さんが亡くなる前に知らせが、電話掛かった時に、私、一人で、お母さん亡くなってから行って来ました。はい。

HH: それは、じゃあ、紀州へですか。

CS: でも、そこのお母さんが亡くなったら、もう、今はもう本当にね、親姉弟みんな亡くなってもういないです。

HH: じゃあ日本にはご親戚はいらっしゃらない？

CS: もう、いどこか、いとこの子ぐらいしかいないですよ、田舎には。ね、東京でも。だから、手紙も、時たまの年賀状ぐらい書くと、向こうのいとこの子か姪か、二スらから、返事来る時ありますけどね。はい。それで、セコの姉さんもね、もう1人、日本に帰った人あるんです、ハタナカ[畑中?]言ってね、カナダ二世だった人。その人もね、もう、2年、1年ぐらい前に亡くなりましてね。で、三世で九州や日本で働いてた三世のその姉さんの子らもね、戻って来たらいいのに、戻って来ないで、今、広島でレストランしてた人やら。天皇様？ その姉さんのハタナカジツエの姉さんの息子、3番目がね、天皇様の所へ出入りする位のお仕事してたの。その子がね、あるんだから、日本戻って来たらいいのに。戻って来ないで、兄弟3人のポーイら家族みんな、東京で固まっている様です。はい。

HH: なるほど。

CS: この人が日本へ帰った時、九州、福岡だったの。姉さんのハズバン、迎えて、はい。

[00:50]

CS: だから、私も、福岡まで行った事あるんです、日本におる時にね、はい。だから、三世の子ら、帰れ、戻って来れなくなって、本当に――

HH: 日本に帰った時に、ああ、凄く変わったな、とか、これは一緒だなんて思ったような事ありますか？

CS: 懐かしいからね。心の中でいつも、日本の田舎や、こう、道を歩いて、考えていてんのよ。でも、もう今は知っている人殆ど、もう青年婦人会でしてた人ら殆どいないみたいです。はい。時々、もう一人か二人しか知っている人いません。はい。で、セコのネフューがね、一回カナダに呼び寄せた、ネフューも亡くなってね。ちょっと前に、今度、そのネフューの

ワイフもこの前亡くなったんです。トロントに来てるのがね。はい。だから、もう、散々と、親戚もこっちで、減ってしまいます。

HH: そしたら、もう親戚の方々と言ったら、殆どカナダですか？ 今、交流のあるご家族と言ったら？

CS: ハタナカ？

HH: ご家族。交流のあるご家族と言ったら、みなさんカナダに住んでいらっしゃいますか？

CS: はい、まあね。

HH: みんな、オンタリオに住んでいらっしゃるんですか？

CS: あの方が住んでいたのは、BC のヘネー[Haney]って言う所ね。私見に行った事ないけどね。バンクーバーで降りて、汽車へ乗ってこちくるからね。飛行機で降りて、こんど、汽車ですってこちまで来たね、バンクーバーからこち、はい。でも、今、親戚っていないです。

HH: 日本にも？

CS: 今、自分の息子らだけ。

HH: カナダにもですか。

CS: で、もう一人、友達で、セコのキャンプにおった友達で、ハムトン [Hamilton] のいい友達もね、もう今早く亡くなった人と、そのワイフだった人がもう、どっかのホームに入っているらしくて、この間、ちょっと知らせて来ましたけどね。ハムトンへもし息子さんに連れてもらって会いに行行ってやってくれて、言っておりますけどね。もう行ってもしようがないですよ、みんなぼーとしちゃってるから、ね。昔、柔道お教えてた人。石橋ね。だから、うちの息子らも、トロント来てからまで、大きくなってから、柔道も習ってたんですよ、トロントで。今のは流[?]でなんかあるでしょう？

HH: 文化会館に？

CS: 会館でね。ここ借りてね、何か来る、スポーツの人ありますよ、なんか違った運動――

HH: 日本の？

CS: 日本の空手？ なんか来てますよ、モンス(month)に一回。

HH: なるほど。今よく文化会館に出入りしたり――

CS: してたけどね、会館って、ここのホームを使って、集まる組もあります。

HH: そういうのによく参加なさってるんですか。楽しみですか、そういうのやっぱり。

CS: なんかあるときは下へ見に行くんだけど、私。時々ね。

HH: そしたら、さっきトロフィーの話をしてた時に、なんか、細工？ 箱？ 箱を作るみたいな話をしてらっしゃいましたよね。なんか作って売ってたって、あのトロフィーなんですけど。

CS: あー、あのと知らない、こさえてる所。はい、うちガーデンクラブのヘルプしてた時、センターいつも行ってる時に頂いたりボンです。で、ここでもガーデンクラブの時、賞してくれまして、その時、もらったのが、今度、この時計に貼りました。赤いリボンにグリーンのリボン。

HH: あれは、千代さんがお作りになるんですか、そういう細工は。

CS: うちで何したからね、生け花、自分で[?]で植えた花のなんでね、変わった花、うちも出してみたら、赤い、今度グリーン、1等じゃなかったけど、はい。

HH: あ、じゃあ生け花を――

2010-051 Chiyo Seko

CS: 生け花じゃないの。

HH: 生け花じゃない?

CS: ただ、ガーデンクラブとして、色んな、箱に変わった花の植え方したり。

HH: へえ。

CS: はい。

HH: じゃあ鉢付きの、根っこ付きの——

CS: 変わった花をこさえるんです。はい。

HH: 多趣味でいらっしやいますよね。

[00:55]

HH: 一杯いろんな事があって。

CS: ガーデンクラブのショーなんかするときはね、お弁当もこさえてね、センターよく運びましたよ。運んだり、手伝ったりね。ええ、日系文化会館の古いときの時、あの時、いつも、うちのセコもいつも出て手伝ったりしてましたから。はい。

HH: 日本人、あるいは、日系人のお友達って、沢山いらっしやいますか?

CS: はい、おります、はい。でも、もう、亡くなった人もおります。ええ。

HH: そういう人とはどうい——

CS: 踊りで知り合った人やねー、なんかでね、私も今いつでも、今でも思い出す。はい。そして、偶然に知り合った人で絵描きさん。絵があるんですよ、こういうとこ、飛鳥童(アスカ ワラベ)さん。飛鳥童さんと偶然に、カナダに来てから、新しく、知り合っただけで、童さんが今度、日本へ行っ、お嫁さん向かえに行っ来てね。また、その子供らも、ショーに出すときにお守りしてあげたりね、子守りしてあげたりしてね。大きなショーの時、出た時、買っんですよ。だけど、時々、飛鳥童さんとも、親しく話します。電話でね、はい。

HH: 日本人の、日系人の若い方と、私くらいの年齢だったりとか、もうちょっと上だったりする人とよく話す機会ってありますか?

CS: はい。日本語がわかるひとはいいんだけどね、はい。

HH: 例えば、どんなとき、どんな機会で、そんな人と話したりします?

CS: 前に、私、忘れる頃に前にどっかで会った時にね、あんた、セコさんねって声かけてくれる人もあるし、どっかで会うとね。なんかセンターで集まったり、なんか、どっかで集まった時、懐かしい人に会いますね。

HH: 例えばね、若い、例えば、私くらいの世代の日系人であったり、日本人であったりでー、戦争の歴史を、戦争の歴史を全然知らない世代の人も——

CS: 知らない人もありますよ。

HH: 大きくなって、来ている——

CS: ありますよ、はい。

HH: そういう子達と話す機会もあります?

CS: 声かけてくれると、お互いに親しく話ししてる内に、なんか色んな話し出るんだけどね。若い人は日本の昔の事知らないからね。

HH: そういう話しが聞きたいなっていうふうに言って来たら、そしたら、それはもう、話して、話したいって思います？

CS: はい。

HH: そうですね。そういうお話を自分の、千代さんのお孫さんとかも、そういう話ししますか、歴史の話とか。

CS: 孫はなんか言ったってわからない。はい、孫は殆ど、日本語わかんない。娘の子だけ、Tiffany はよく私の事、よくわかりますけどね。でも、知らない子でも、じいちゃん、ばあちゃんって、呼んでくれるし。

HH: 息子さんとかお子さん、千代さんのすぐ、なんていうか、息子さんにもその話ししますか。日本はこうだったんだよ、とか。

CS: はい。2番目の息子はね、今年入ってだったかな、日本へ行って来たみたい、嫁さんと。嫁さんのね、親は広島の人だったんだね。だけど、うちの方の故郷(ふるさと)は和歌山紀州のどっかへ行ったかったら、行かなかったって。ね、大阪や京都、ああいうとこだけ、旅行して来たみたい。

HH: なるほど。今、和歌山？ 岡山？ 和歌山？

CS: 和歌山。

HH: 和歌山ですね。紀州ですね。そしたら、和歌山の県人会ってありますよね。

CS: はい。

HH: そこに行ったりしますか？

CS: はい、県人会のあるとき出ます。でも、あの頃の人でも案外もう歳取って亡くなって、知らない、いない人、であと、役員やって下さっている人でも、私ら知らない人もありますものね。はい。

HH: 若い人は入って来ますか、県人会に。

CS: 県人会の時入って来ますけどね、はい。でも大概ね、県人会、いつも親が日本語使っている所は子供でも英語ね、日本語わかる人もあるけど。

[01:00]

CS: 英語ばっかして喋ってる人も多いからね、はい。

LU: Can I change the tape?

HH: Sure.

CS: でも何にもお役に立てません。

HH: いやいや、そういうお話を私たちは聞きたいんですよ。どんな風に生活して来たのかなあ、というお話を。

LU: Okay.

CS: だから色んな人が、同じこ知って、もう古い人でもガーデンクラブでも色んなメンバーの人でも、仏教でない人もあるからね、はい。あの絵を描いているのが、大きな絵、ケンザキさんって人が描いたの。ケンザキさんもここぞ奉公で入ってますけど、もう今だいぶ弱くなっていますけどね。

HH: なるほど。

CS: でも人生に悔いはないです。でももう一回日本に行って来たいねえ、なんて。でも今ほらテレビ NHK 見られるでしょ、ここで、テレビ。いつも日本の NHK 見るでしょ。色々な日本のことも、旅行あんまり、日本で旅行してないから、テレビで旅行してるの。[笑] ね、風景のいいとこ。私は紀州では、東京行き来したけども、もう乗り換えする、ねえ、大阪とか和歌山とか知らないもんね。

HH: これが何かさみしいな、というか、これがあつたらなあ、と思うようなものってありますか？日本の例えばものであったり、人であったり、これがあつたらなあって思ったりすることありますか？

CS: けども今の、昔の日本をあまり方々歩き回ってないし、知らないから、ね。テレビでひよっと見て、ああ今、テレビで旅行してるぐらいで見ながらよ、はい。でも気安く話してる人でももう忘れっぽくなって人が多いでしょ、ね。はい。

HH: 日本の行事とかってそのまま、こちらでもやってますか？

CS: 料理？

HH: 行事。何かお正月とかお盆とか――

CS: お盆とか。

HH: うん、そういう年中行事やったりしますか、こっちで。

CS: こん中ですか？

HH: 千代さんが何か個人的に何かやったりとか、みんなで何かやったりとか、しますか。

CS: いやあー、何かの時いつもホールで見せて頂くけどね、はい。

HH: 例えば日本の休日っていうか祝日があるじゃないですか。例えば終戦記念日だったりとか、そういうやっぱり色々やります？

CS: ええ、やります。はい。いつも敬老会、今度敬老会があんのね、6月17日にね、ええ。大きいパーティーして下さいます。間でもなんかかんか、よそから学生、クラス、コーラスの組とか何かが来て、年寄り慰めてくれますからね。ああいう時みんな降りるんですよ、はい。大きなステージがあります。奥まで見ました？センター、ステージあるホールまで見ました？

HH: そこまではまだ見てないんですけど。[笑]

CS: 毎朝ね、マンデーからフライデーまで、朝、体操があるんです。あの時、来たい人が出席して体操するんです。ホールにずっと椅子を一人ずつ並べてね。そのチェア一つ一つみんな並んで体操するんです。でもここ入って長年ね、体操ね、先に立って号令かけてくれる人があるんです。ええ、メンバーの人でね。だからうちのハズバンドはね、朝7時過ぎになったらね、下に降りて行ってね、椅子を並べに降りてくの、ホールへ。ヘルプしてるんです。

[1:05:00]

CS: それで9時、8時半過ぎになったらね、そろそろと人が降りてきて。それぞれの自分の好きなチェアの所で、はい、みんな体操するんです、はい。レコードもタテイシさんというミスターがね、ラジオみたいなものを置いてそれかけたり。その間、ラジオで号令するとこと、またアイホシさんという人がね、また口で号令したりして、もう体操の順序が決まってるんです、はい。その時に顔合わせして、みんなもの話したりね、何か会ったり、「みんなまだ元気だね」言うて話し合い、世間話するんですよ、はい。

HH: なるほど。

CS: 私らも体操出ただけ出ていきますけどね、全然ルームから出て来ない人もあるのね、ええ。けども、なんか演芸会や何かグループがきて見せてくれる時はね、大勢出て来ますよ、ええ。だからそんな中で知らない人もあるしね。だから普段体操で顔合わせる人はもうみんなね、大体もうわかっていますからね、ええ。

HH: なるほど。そしたら少しですね、時間を戻して、もう少し戦争の時のことと、戦争が終わった後ら辺のお話をもう少し詳しく聞いてもよろしいでしょうかね。何か今考えてあの時はこうだったなあって思うことで一番印象強く残っていることって何ですか？

CS: カナダでの印象わかんないね。でもこの間映画があって見に行ったらね、戦争の時の映画を見せてくれてたわ、ええ。

HH: なるほど。日本で終戦を迎えた時はどう、玉音放送とかも――

CS: 旅行？

HH: 天皇、陛下のラジオもお聞きになりましたか、ラジオ。

CS: ラジオは聴きませんけどね。ここでお会いしましたよ。天皇様、皇后様。あっこに写真あるんでしょ。私あの、皇后様とうちのハズバンと私が立って話してる所。あっこに。

HH: 感激しました？

CS: 私、小さい写真撮ったの、そこ挟んだんですよ、これ、このケンザキさんの絵に挟んだの。これ、はい、皇后美智子様。

HH: カナダにいらっしやった時の？

CS: はい。7月、去年だったかね、いらしてね、訪ねて来られて、モミジまで寄って下さって、皇后陛下とこれハズバンド、これ私。もう、それで皆んなホールにザーツと輪になって並んだの。それ、みんな挨拶して下さって、ずっと、ええ。[笑]これちょっと写真、カメラマンが写真撮ったのを私らにまたくださったの。カメラ撮りに来た人がね。で、ゲートボール、ハイパーク [High Park] でやってる組にこの人ずっと前から入ってたの。だから私もね、孫の守から手が離れてね、ゲートボールについて行くと思ってしてたらね、もうゲートボールもやめました。やめてね、もう人がいなくなって、少なくなって、10人そこそこ。

HH: それは日系人の方々――

CS: 日系人の、はい。ハイパークで始めはね5、60人あったんですよ、ゲートボール。私がデグラシ [De Grassi] に住んでた時からこの人、ゲートボールいつも行ってたんです。私もちょっとね、ここに入ってからね、ちょっとついて行ったりしてたんですよ。それで楽しんでみんなしてたのに、出かけるのが気晴らしになっていいから。それがもっともって人が少なくなってね。そしても借りてしようと思ったら大きな金を払わなんならないのね、ハイパークに。で、先に立ってやって下さる人らがね、もう少なくなって、こないだうちもね、もうやめてから、春やめてから、ちょっと一回、二回、三回ってね、食事会に集まんの。集まる時でも、もう人がよけないの。もう一回、9月の1日に集まりましょって。

[1:10:00]

CS: 先に立ってね、道具を預かって下さってる人がね、日本から来てこっちで仕事している先生、コバンカワ（小橋川）先生とニシサト（西里）先生。先に立ってゲートボールの世話をして下さってたのよ。ええ。だけど、集まる時ないと思ったら、9月の1日にもう一度集まりましょうって。レストランで、マンダリンでね、ヤング[Yonge St.]の。集まることになってるの、はい。

HH: じゃ、楽しみですね。

CS: けどもね、本当に人が少なく、それ惜しいです。ゲートボール出来なくなっただね。で、モミジでもね、ちょっと始めてたのよ。だけどそれも2、3年でやめちゃった。人が集まらないんだもの、ここは。そのパーク借りてやってただけだね、ええ。

HH: 残念ですね。

CS: [笑]だから気晴らしに出かけるってことないんですよ。それでね、ボウリングはモミジでね、行っている所があるらしいの、オカノ [O'Connor] の方にね。でも私らはハズバンがずっと前からね、あのボウリングをやってた組、その組ももう人がなくなって来たけどね、私ここに入ってからハズバンについてボウリングへ行くようになった。いつも孫の守をしている時は行けないでしょ、学校の送り迎えが、ええ。で行ってたんだけどね、もうボウリングも、もう、けどね今、ボウリング場、私らのペープ [Pape] から、何とかタウンセンター、ペープで乗り換えてバスに。

HH: ノースヨーク、イーストヨークセンターかなにか？

CS: 何とかタウンセンターってね。あそこはね、いつもエブリーウィーク、ウエンスデーに出かけるんです、ええ。で向こうの近くにね、デグラシ [De Grassi] の近くに住んでた友達があそこの近くに住んでね、一緒にお相手して下さるんで。その前何人かおったの、みんなお年寄り、亡くなってしまって、ええ。でも今ね気晴らしにウエンスデー、ハズバンドについて遠くても出かけるのが楽しみです、ええ。

HH: それが毎週、エブリーウィーク、やってるのですね。

CS: 毎ウィーク、ウエンスデー。宮西さん [?] いうミセスがね、デグラシのゴードン [Gordon?] のストリートに住んでた人がね、あそこにムーブして残ってたの。

HH: なるほど。

CS: 私もボウリング、孫を見てる時はどこも何かに出かけられなんだけどね。ここに入ってから、リタイアしてから、だけど毎日贅沢だな、こんなアホみたいに何もしないで遊んで [笑] のんきにさせてもらって。

HH: リタイアしたのはいつ頃ですか？

CS: みんなここで、私ここに入ってもう8年になるからね。それまでもうほら、娘の孫をずっと面倒見てたから、はい。でも自分が住んでたデグラシーの家は娘、ハズバンに死なれた娘と孫が入ってるの、はい、ええ。でもその大きい孫がもう20歳近くになって、ね、はい。友達と他にルーム借りて住んじってる。孫が、孫娘が、はい。テファニー [Tiffany] というの。テファニーは踊ってるの、いつもセンターに踊りに行ってたのよ、踊った写真がある。

HH: 千代さんが教えてたんですか？

CS: いや、もうね、私がスタートしたあやめ、さくら会？センターで、今日系の踊りの会は元は私が始めた分です。

HH: いつ頃始めたんですか。

CS: だから1960何年なってかね、私写真もあるけど。

HH: じゃあカナダに千代さんが来てから10年ちよいくらいしたあたりで踊りの会を立ち上げたと。

CS: はい。テラキタ[寺北?]言うおばあちゃんがね、よう踊り出来るんだったらお寺の人に教えてあげないと、とお寺の婦人会が頼みに来たんで。で私盆踊りを教えるようになったね、はい。それからその後ね、日系文化会館が出来た頃、若い子供にもどうだろうかっていうんで、それでさくら会スタートして、それも教えに行かなきゃならんしね。[笑] センター、よくデグラシから通いました。

[1:15:00]

HH: さくら会は今もあるんですか。

CS: やってます。それであやめ会というのね、後もう一人のね、組の子、と言っても私の友達が始めてやってます。で、ああいう時にね、モンリオールの人がね、トロントに来て、踊りの会がある言うて知ったあと私のところに訪ねて来てね。それからその後、今度またモンリオールに一遍来て下さいって。それでね、モンリオールも一遍行って、そいで踊りのこと披露して。そしたらモンリオールにもどンドン踊りの会が出来たみたい。

HH: モンリオールも日系の方が千代さんの話を聞いて――

CS: はい。

HH: あら、そうですか。

CS: [笑]だから私、ああいうんなんでね、トロントのほとんど何した時に、日本からピアソン[Pearson]首相が来られた時ね、呼ばれて、ホテルに、はい。であそこに写真、ピアソン[Pearson]首相と。はい、写真撮っていただいた、私ら、はい、指導者が。子供は子供のね、写真、オンタリオのなんで、はい。

HH: なるほど、沢山本当に色んなことをなさってます。

CS: はい、若い頃は忙しかったですよ、だから。[笑]日本におりや牛耕の指導で走り回らんなんし、自分の家のこともしなきゃならんし、ね。踊りは踊りであっちこち。夜になったら出かけんし。小さい子がある時はハズバン帰ってからやんなきゃいけないしね。でも良かったです。ま、人生に退屈しなくて。[笑]ただ今は何にもしないでもったいないね、なんて言うてんだけど、はい。

HH: でもボウリングに行ったり、ゲートボールしたり――

CS: それでね、私、何かの時にね、演芸で知り合った人らと集まって、ハリー・クマノさん、クマノっていう人。何かとね、来た時にね、知って集まった時にクマノさんと他の人の家集まった時、そこにピアノ置いてあったからね、私我流でピアノ弾いてみてたの。[笑]私、習ったんじゃないから。子供の頃、病気で寝たりしてる時に東京から姉さんが送ってくれたピアノで、玩具のピアノ弾くこと兄さんが教えてくれて。それで勝手に我流で音楽を、ピアノ弾くこと覚えたね。それでね、こっちで今度、カナダに来てからも友達のとこでピアノちょっと置いてあったの珍しいから触ってたの。「お前、音楽出来るんか?」って。ハリー・クマノって音楽の好きな人よ。だから私「勝手に我流でやってんのよ。自分、習ったことないのよ。」と言ったらよ。で、それから後ね、日系人がね、カナダに日系人が住み出して百年、百年なる時にね、百年祭の式を何するために、百年祭の歌をお前作れって言われて、私、作らせて頂きました。その歌が取り上げられて、それでしてから、私がした歌を今度日系人で日本から働きに来てた人でね、音楽のこと良く分かっている人があったんで、私が作った歌をね、ナイスに、私が下手な曲しとったらね、曲を書くことも知らんのにね、その人がちゃんとしてくれてね、日系百年祭の歌、カナダ中全部で踊って――歌ってくれましたよ、はい。

2010-051 Chiyo Seko

HH: それはすごい大偉業ですね。

CS: テープあります。テープ聞いて下さいます？

HH: はい、まあ勿論、それは。

CS: 私、テープ持って来ます。テープもおさないから頂いたの、役員からね。

[千代さん、席を立つ]

HH: She wants to play the 100-year anniversary of Japanese Canadian settlement? That apparently she composed?

LU: Oh, okay.

[千代さん戻る]

[1:20:00]

[音楽: Japanese Canadian Centennial Song?]

CS: 私あのテープ[不明]だけどね。[音楽続く]

[千代さん、席を立ててまた戻る][音楽終了]

HH: うーん。

CS: 本当にまさかと思ったけどね。私日本に田んぼしてる時から色んな歌作ってるの。こっちへ来てからも色んな思い出の歌作って、勝手に一人で歌ってるの。

[再び音楽流れて終了]

CS: もっと大きくしますか？

HH: あ、大丈夫ですよ。もう少しお話を聞きたいんですけど、いいですか。あ、大丈夫ですよ。どうもありがとうございました。

CS: 良かったらもう一回大きくしてもらってもいいですよ。

HH: [笑] 大丈夫です。

CS: センターにも何か残ってると思いますよ。

HH: 日本、百年、日系、この百年の歌を作ったの、いつくらいですか。

CS: カナダに日本人が住むようになって百年なること。

HH: いつくらいですか、それって？

CS: え？

HH: いつ頃この歌をお作りになったのですか？

CS: あれ作ったのは何年だったかしらね。そこ書いてないね。日系百年祭した年は、ハズバンドが覚えているかな。

[笑] 聞いてみます。

[千代さん席を立つ]

CS: 父ちゃん、日系百年祭の歌した時は何年だった？

SS: 覚えなし。

CS: 百年祭のこの年はこの何年だった？19——、忘れた。[笑]書いてない。テープにもない、書いてなかった。センターでわかると思うよ。

HH: なるほど。調べてみます。日本に帰った時に、日本の親戚だったり、お母様と話したり、しました、何か？カナダ、久しぶりに会ってどんな話をしました？

CS: 何かあった場合、電話。日本は昔電話なかったわね。だけどその後で東京、お父さん、お母さん東京に移ってからやけど。

[1:25:00]

CS: 時々電話で話しましたが、ええ。でもお父さんも死んじゃって、東京の姉、弟、兄さんに世話になってる時にね。

HH: 「カナダの生活はどう？」みたいな話は出ました？「カナダの生活はどう？」みたいな話になりました？

CS: カナダの？

HH: うん。なりました、日本に帰った時に？

CS: 話しましたよ、お父さんにね。だってお父さん、行け行けと言うたでしょう。だからカナダに行け行けとお父さん無理に勤めて、私、田舎だったら親を捨てて来れないと思ったんだけどね。呼び寄せてくれても来れないと思ったんだけど、お父さんは行け行けと。自分の家を捨てても、東京の娘やクニオがいるんだから面倒見てもらおうからって。それで引越してから私こっちに来たんですから、はい。

HH: じゃあ全然反対されたりはしなかった？お母さんとか、他のお姉さんとか、全然反対しなかったですか。

CS: いいえ、別に。姉さんは、東京で育った姉さんそのままご奉公し、2番目の姉は田舎の学校卒業してから東京の姉さん慕って行って、姉さん奉公した後の社長の家で奉公し、私がまたその後出て東京の社長さんところへ。

HH: 紀州、東京に住むのと、カナダに住むのではすごく距離が違うじゃないですか。

CS: 違います。[笑]

HH: [笑]それは大丈夫かなって、何か——

CS: やっぱりこっちの方が楽。

HH: それはちょっと遠すぎるよ、みたいなことは——

CS: ない。

HH: ない？言われなかったですか、ぜんぜん。

CS: 東京でも堅苦しいわね、近所の人とも外で大人もご挨拶するぐらいでね、もっと親しくせんのね。今は知らないけど、ええ。

HH: じゃあ戦争が終わってから、こっちに来て、カナダに移ってから日本に帰った時に、何か色々そういう話しました？

CS: 私、日本の戦争済んでからだから、戦争済んでからハズバンが日本に来て、日本で何年か働いてから、また戻ったんだからね。親を両方見送ってから、ええ。だから——

HH: あんまりそういう話は、特にはなく——

2010-051 Chiyo Seko



CS: だからこのカナダ二世の人でも、もうヘイネー [Haney] 時代をセコが知ってた人でもあんまり残ってませんしね、うん。けども、カナダにもし来た人はやっぱりカナダの方がいいね、と言ってる人もあり、はい。

HH: 日本帰りたいな、という人は、あんまり——

CS: あんまりないですね、ええ。でもテレビで見ると、日本もずいぶん色々変わっていいですね。[笑]ね、日本のテレビ見てるのに色々、日本にも色々な国の人が入ってますね。

HH: そうですね。昔はそんなことはなかったですか。

CS: 田舎はそんなにね。あなた等はどこですか？

HH: 私は千葉県。

CS: 千葉県？ ああ千葉——

HH: 千代さんのお母さんと一緒ですね。[笑]

CS: もうあそこも、もう私電話かけることもないわ。知っているいともいないし、はい。千葉県で白井市 [?] っちゅつただけど、お母さんの里は、ええ。私東京にいる時は千葉のおばあさんが時々ね、東京に出て来て会ったりしたけどね。それでも戦争のなんで、兄さんのお嫁さんがやと戦争終わったとこで兄さんが帰らんから向こうへ行ったのに自殺してしまうなんてね。

HH: お姉さんがですか？

CS: 一番長男の兄さんがね、部隊がよ、朝鮮に行ったんだけど、部隊全部自殺しちゃったの。だけど、弟もあんまり早く、本当にもう志願して入っても 2、3 年で終戦になったんだものね。魚雷に撃ち上げられて、戦争終わったという世界中に知れ渡っているのに、北朝鮮出発したとこでロシアから撃たれた魚雷にやられてね、弟 19 歳で、死んだのね。

[1:30:00]

[conversation redacted from 1:30:09 to 1:31:05]

HH: 千代さんは終戦っていつどうやって知ったんですか？

CS: ん？

HH: どうやって終戦、戦争終わったっていうのはいつ、どうやって知りましたか？

CS: 終戦したのは、あれ何年やったかわからんもん[?]

HH: 1945 年。

CS: 忘れちゃった、もう何年——

HH: どういう風に知りました、それ。誰かが教えてくれたというか——

CS: 私が働いている、働き出した時だから、17、8 の頃かね。

HH: 覚えてます、その時のこと？ 戦争終わったんだよ、って誰かが言ったとか。

CS: 戦争終わったって、慣習それまで慰問、兵隊慰問に行ったりしてたからね。その日記、古い日記はねもう要らないと思ってもう捨てちゃったの。私いつも日記つけてたの。いやあ、だから何年だったかももうテレビでこの頃 NHK で終戦になった時のこと話してましたけど、ええ。

HH: 覚えてますか？

CS: 覚えてません。[笑]

HH: [笑]夏ですよ。

CS: だけでも兄さんのお嫁さんはチャイニーズ（Chinese）にいられて幸せな結婚しているらしいし。一度、お母さんがまだ日本の田舎におる時に会いに来てくれてたというからね。隣の町の人だったからね、嫁さん。だから良かったけども。私もそれ知ったけども、一度日本に行って仏さまに行ってみたいと思うんだけど。勢古の甥の嫁がこの間死んだ時にね、嫁の勢古の甥の嫁に知らせたんですよ。甥のテツイチ言うのがね、後でうちのハズバンドと同じカナダと一緒に戻って来てたんで。それがね、その嫁がこっちのカナダの日本全然知らない人、そのジェニー [Jennie]さんと言うのが亡くなったんでね、妹の、テツイチの妹に電話したんです、私。それでいつ死んだからと言ったらね。一回、テツイチさんがご夫婦で会いに行ったらしい、日本へ、ジェニー [Jennie] 連れて。だからお姉さんの、テルコ姉さんの写真欲しいと言うから送ったんです。そして、そのフクイチゅうんだけどそのフクイチがね、あの勢古のお墓も私達いつも見に行ってますと、お掃除して、はい。勢古家のお墓もね、見て、見回って来ますから。隣の部落だったけど、はい。だけでも本当に日本が戦争するから。でも今になって、この間、よく出てるんですよ、戦争の時のテレビに。NHK 見てると、はい。兵隊なんかのね、色んな有様見てるんです、ええ。だから、この頃、ここでも映画見せてくれたけど、途中で何かもう可哀そうになっちゃって戻っちゃった。映画の途中だったけどもう帰って来ちゃった。思い出しちゃって、ええ。満州でね、チャイナ[China]の国で戦争のあと困っている色んな人の話、映画に出てたからねえ、戻っちゃった。

HH: 本当にあんまり思い出したくない部分――

CS: はい。それでも、私一人だけね、生き残ってるからね、一番病気で親不孝して何したのに、みんな兄弟もみんな死んじゃって。

[1:35:00]

CS: 私一人が生き残ってカナダに来たおかげでのんきにさせてもらって、[笑] 子供らと一緒にみんな幸せにやってますんでね。本当に悪いなと思って、はい。[笑]

HH: ふーん。

CS: でも一度、故郷(ふるさと)ちゅうところは戻ってみて見たいもんです。もう今飛行機でなきゃ日本飛べないけど、ね、氷川丸に乗ることないしね。

HH: [笑]そうですね、氷川丸はもうずっと横浜港にいますからね。

CS: ええ、それで私一回見に行ったら来ました、日本に帰った時、氷川丸をね、見に行ったら来ました。東京に出る時にね、ちょっと。

HH: どんな気持ちになりましたか、見た時？

CS: [笑] 映画に出ますもんね、氷川丸のあれ、ええ、港に置いてあるの。

HH: どんな気持ちになりましたか、氷川丸見た時？

CS: [笑]やっぱしね、昔を懐かしい恋しいと思ったり。でも時々言うの、ハズバンに、自分が今頃日本にあったら何しているだろうね、と。[笑]

HH: 何をしていますか？ 考えたことありますか？ 何をしていますか、もし日本に、カナダに来てなかったら？

CS: [笑]わかんない。あそこね、紀州に下里駅(シモサトエキ)ってあんのよ。なぜか太地(タイジ)、串本、との間にね、下里、家は太地町で駅降りて、それで田舎へちょっと、田舎の方に戻って、はい、歩いて行きます。だけど今はもう歩くじゃない、何でもバスついてるのね。バス使ってんのね、ええ。一回、日本の田舎見てきたいねなんて言って。[笑]でもこんなもう元気ないからね、ストロークして倒れたりしたら、もう今頃日本に行って倒れて迷惑かけたら困るからね、もう故郷(こきょう)に帰ることも出来ない。兄弟もいないしね、勢古のお姉さんもいないしね、ハズバンの姉さんももういないしね、ええ。だけど三世の姉さんの子が帰って来ないんで、カナダへ早く呼んでやれば良かったらうけど、ね。

HH: 帰って来ないというと――

CS: ハタナカ(畑中)という、ミツエという姉さんの子。

HH: 日本にいらっしゃるんですか。

CS: はい。一人は広島でレストランしよった。三番目が色んなガバメン[Government]の仕事、そして走り回って世界まで行ってたね。あの三番目、カズヒト、一、二、三って書くね、人って書くもんね。長男カズヒト、ツギヒト、ミツヒトって。でミツヒトはね、時々私も話したりしたんだ、[不明]でもね、ミツヒトがもうとつても外交の仕事、日本での外交の仕事。そしてね、天皇様が前チャイナを訪れた時、ミツヒトが行ってちゃんと天皇様のお宿なんかみな全部準備したりしたって、はい。

HH: 誇らしいですね。

CS: そんな、そういう仕事してたの、あの子ね。けども、早く日本、カナダに戻れるようにあんこ、あんこって言う、ショウジさんのこと。あんこがおるんだからみんなカナダに戻って来るよう早く呼んであげれば良かったねって言ったんだけど、こっちもお金がないのに[笑]ねえ、あの子戻るのがあったらね。何だったけどみんないい仕事してたから、カズもツギもミツも、はい、ええ。

HH: したら何かこのお話はしておきたいなあ、みたいな面白い話とかありますか？ 何かどうぞどうぞ色々話して下さい、何かあったら。

CS: 話したいと思うよ、私あってね。カズヒトの子がアメリカ行ってミサオさんっておばさんのとこ行って何かしてるちゅうけども、ミサオって人はトロントにおった人なの。でその人と私ら知って、会ってるの、はい。で、そのミサオさんが白人のアメリカの兵隊さん、日本に行ってる時、アメリカの兵隊さんと結婚してたのね。だからまたアメリカに行ったの。

[01:40]

CS: だからそこへまた、三番目、カズヒトの娘がミサオさんとこ、アメリカに行ったらしい。[咳]

HH: なるほど。大丈夫ですか？

CS: [咳]私、喉アレルギー (allergy) みたい、何か、風邪じゃないね。もう長いことこれ、喉悪いの。

HH: お水か何かあります、お水とか、飴とかあります。

CS: キャンデーいつもくわえて。でこの間出かける時、喉の薬ちょっと飲んだりするんだけど。

[咳]でも本当にカナダに来て良かったです。[咳]

HH: そう思いますか。

CS: 私みたいな者の踊りでも役立てて下さって。で、ずっと後からね、小桜流の小桜先生がね、カナダへ、トロントへ来て、それで本物の先生の踊り習う人が多くなった。そんな小桜先生の時、私もちょっと小桜先生の踊りしてたのね。はい、みんなで踊りとか踊ったりね。[咳]それで私もモミジ来て刀、刀踊りを教えてって、刀、日本の踊りの刀、大小、大と小と、そいで槍。槍はここにカナダにトロントに住んでたマスタグさんってね、ハズバンドの友達が作ってくれたの、槍と持ってね、来てたの。

HH: それ、踊り用ですか、それとも何か戦い用っていうか武道——

CS: 踊り用。で、私それで何かの時、踊りの時ステージ出て、はい。その時オンタリオ館から頼まれて日本の舞踊見せてくれて。で、私、宮本武蔵踊ったんです。で、今度はね、男の人 5 人にね、それぞれ踊りの振りを覚えて黒田節、5 人に踊らせた。そういうこともしたん。だけども出来なくなってからね、小桜先生も踊り教えるようになってたからね。小桜先生の所に、私、息子に頼んで刀も槍も運んでもらって、「先生これ使って下さい、私もう出来ませんから。」って、お渡ししたんです、はい。

HH: なるほど。

CS: で、小桜先生のね、踊りの組も時々ね、このモミジに踊りしに来て下さるんですよ。でも教えてた、私の知った小桜先生、お母さんの方でね、もうその人が今度よそで教えてんの。で娘さんが二人そのさくら会、後継いで踊りをやってるんです、はい。

HH: じゃあ、そういう踊りを見に行ったりとか、来るのを見に行ったりとか——

CS: はい、来たら見せてもらうんです、はい。

HH: お寺のお坊さんがいらっしゃるんでしたっけ？

CS: 小桜先生の娘さんが指導して、日系会館でも踊りやってるでしょ。

HH: そうですね。

CS: モミジはモミジで何か踊りここ集まっていますよ。モミジで踊りたい人も入って、はい。

HH: じゃあ毎日そういうのを見たり参加したりして——

CS: はい、この間はちょっと向こう踊りの会が来たから見に行き来しました。その中には私が知っている人が何人か私が教えてた時踊ってた、ちょっと親、親ですね、自分の娘を連れてきてここに来てるのに会いました、ええ。そういう時、知ってる人に会います、はい。

HH: こういインタビューって言うか、何かその日本人の移民、移住者としてのお話を今までにこういう形でしたことってありますか？ 誰かが千代さんの日系移民としての経験を教えてくださいって——

CS: いいえ、別に。そんなお話したことありません。見に行っただけ、センターに何かある時に。

HH: なるほど。もしこれから、こういう風に誰かがお話聞きたいんですけど、と言ったらこれを繰り返しても、話し、伝えて行きたいと思いませんか。

CS: もうでも、もうこう年取ってふらふらしてるからダメ、はい。私の時は館長さん、カドグチ[門口?]さんだっけ。

CS: カドグチさんのミセス、お花、生け花の先生してますね、はい。カドグチさんに何かの時会います。ここでガーデンクラブした時も見えてました。ガーデンクラブの時に来てね、はい。

HH: そしたらそろそろお時間なんですけど、何か最後に何かこれは話しておきたいことがあったら――

CS: 私はだめ、人前で、学校の先生したわけじゃないから。

HH: でも踊りも教えたし、色んな歌も作ったし、作詞も作曲もしたし。

CS: [笑]作曲ってわけじゃないけどね、何かの時にセンターに見に行った時にね、この作曲ヘルプしていいメロデーをこさえて、百年祭の歌ヘルプしてくれた人が会いました、久しぶりでいつか、ええ。

HH: なるほど。何か、この話はしておきたいという話があったら是非、最後に聞かせて頂きたいんですけども。

CS: だけでももうこれは私は自分で書くわけじゃないし、ピアノの本当のなに勉強してるわけじゃないから[笑]我流でやってたんだからね。

HH: でも我流だったらね、我流で出来る分だけすごいじゃないですか。そしたら、じゃあ今、楽しみにしていることは何ですか？

CS: え？

HH: 何が楽しみですか？

CS: [笑]もう楽しさでもうぼやっとしているだけよ。ボウリング行くの気晴らしになるから出かけるけど、花[不明]たり、ブックばっかし読んだり、ね。ハズバンドは日本のブックあまり読まん人だったけど読むのよ。[笑]時々ね、これ何、カナダの、わかんない、日本の言葉で読んで漢字あるとすうって言えるって、言葉使えることならね。だけど時々ちょっと字これ何て読むんだって聞く時あるけど。みんな日本語学校に行っていたらいいからね、昔ね、B.C. で。

HH: 旦那さんとは基本的には日本語で？

CS: えっ？

HH: 基本的には日本語で旦那さんとは会話なさるんですか。旦那様とは日本語で会話は、基本的には――

CS: はい、日本語何でもわかります。日本でも丸通会社で働いていてね、はい、下里駅の前の丸通の会社で働いていてね。

HH: 英語でしゃべる機会ってどれくらいありますか？

CS: 英語話せる人と英語でべらべらしゃべってますよ。

HH: 千代さんはどうですか？

CS: 私はダメ、私日本語ばっかし。勢古が日本へ来た時にね、私のトジのお父さんの兄さんだったアメリカに行っていた人がね、日本帰って来たのよ。あん時にね、おじさんも何だったんだけど、その後何年かしてそのおじさんの息子達夫婦で帰って来たの。その時にね、勢古がおってね、おうた時にね、二人がべらべら英語でしゃべり出したから私びっくりした。[笑]英語で話してるの聞いたことなかったのにね、ええ。もう、その人等も死んだしね、日本へ帰ったもののね。アメリカにいたら良かったな、私等も行ったり来たりするんだったんだと思ったけど。アメリカがいいか、カナダがいいか知らんけど、日本よりここの方が穏やかでいいですよ。

HH: 穏やかというと天気のことではないですよ？

CS: もう何か、皆んな、そいでね、私今杖ついてるからやけどね、バスでも電車でもハズバンについて行くでしょ、私。乗るでしょ、満員で一杯あってもね、私が乗ったらもうぱっと誰か立って座れて。男の人でも女の人でもねすぐ席開けてくれるのね、二人に。こんなこと本当に日本じゃ前になかったよ、昔は。今はどうか知らないけど、ね。だから満員の電車が来てもバス来ても乗ったらすぐ席譲って下さるのね。気の毒なの本当に。[笑]だから空いたところがあればいいと思って乗るんだけどね、はい。だからカナダはいいな、トロントの人はみんな外国人でもみんな親切だなと思って。

[1:50:00]

CS: ええ、本当に。

HH: なるほど。じゃあ、トロントお好きですか？

CS: ええ。息子らも本当に幸せで喜んでます、ええ。[笑]

HH: どうもありがとうございました。長い間、沢山面白いお話をして頂いて。そしたら、そうだな、じゃあ、次の一か月で何が一番楽しみです？楽しみに待っていることあります？

CS: えっ？

HH: 次の1か月の中で楽しみに待っている予定ってありますか？

CS: 予定ですか。今これってないけど、時々子供等が何かパーティする時、娘のね、私住んでた家が古い家なの。それをね今ね、長男のシゲキいうのがねいつも色々直しに行ってくれてるらしいの。それで娘の Amy ちゅうのがね、いつもよく電話してくれるね。この家が全部きちんと出来上がったら一回母さん呼んでみんなここでパーティするからね、と言うから、その日を楽しみにしているの。

HH: それはデグラッシ[De Grassi]の？

CS: デグラシの、はい。

HH: その家はカナダに来た時からずっとそこに住んでいらっやいましたか？

CS: その前ちょっと、その前違う、その前スパダイナ[Spadina]に近い所に住んでただけどね、はい。デグラシ後でムーブしたんです、ええ。

HH: じゃそれは――

CS: もう長いこと住んでるから。で娘が来た時、時々言うの、まだ長く長生きしている人があるかってね。近所で知ってる人がね、マミ、ダディ元気かってよろしゅう言うといってくれ、と言ってきているらしいのよ。[笑]はい。

HH: そしたらそれを楽しみですね、色々な人とまた再会して。

CS: はい。まだそんな、私知っているん人がまだ生きてる人あるんだね、って私言うんです。[笑]ええ、だからやっぱりカナダの人は親切だね、日本じゃ近所の人でもろくに物言わない人多いのね。本当に、ええ。

HH: じゃあ、それ楽しみですね。

CS: けども、もし何だったらちょっとルーム[Room]と、写真まだあっちこっちありますから見てください。

HH: はい、ぜひ見させていただきます。じゃあ、今日はどうも、こんな長い間どうもありがとうございました。

CS: あんたごめんなさい。あんたえらいでしょ、座らして。こっちいらしたら座れたのに。ね。

2010-051 Chiyo Seko



[1:53:00]